

楷

第四十八号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI
No.48
2009
FEBRUARY

<写真>

ゆかう

木^ユ袖ニ似タリ實密
柑ニ似テ少シ小ナリ
皮薄シ可食

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

一 目 次 一

- 雑感（西堀正洋鹿田分館長） p. 2
- Read Me! Book.4 「昔の読書の経験：本の効用」
（社会文化科学研究科 中村良平教授） p. 4
- インターネットを活用したデータベース講習を考える：講師の声
（トムソン・ロイター サイエントフィック 矢田俊文） p. 6
- インターネットを活用した Web of Science/Endnote Web 講習会の実施
（参考調査係長 北條充敏、保健学研究科 大橋知子、山下亜矢子） p. 7
- ご存じですか（黒正巖先生胸像）（学術情報サービス課） p. 9
- マスカット p. 10
中央図書館耐震工事のお知らせ、池田家文庫等貴重資料展報告、ほか
- 会議・研修・編集委員会から p. 14

雑感

西堀正洋

昨年4月、附属図書館鹿田分館長を拝命した。これまでもっぱら図書館の一利用者として一方的にお世話になってきたが、この機会に最近20年くらいの期間に私が経験した学術情報環境の劇的な変化について、振り返ってみたい。もとより、研究に偏った個人的な雑感のレベルを越えるものではないが、お許しいただきたい。

振り返ってみると

私が研究生活を始めたのは1980年のことである。当時、研究に関連する論文の検索には、生命科学領域のカレントコンテンツを利用していた。カレントコンテンツは、1週間ごとに発行される、論文雑誌の各論文タイトルとキーワードならびに著者名からなる索引が末尾につけられた小冊子である。我々の研究に関係する重要な論文報告を見落とさないようにするために、教室員で分担してチェックする雑誌を決め、関連重要雑誌の論文タイトルに誰かは目を通すというやり方をとっていた。このような分担体制でやっても、相当数の論文タイトルを見なければならず、それはタイトルを流し読みするといった体のスクリーニングであった。さらに、自分の興味関心テーマについては、これとは別に索引を用いて検索していた。おそらく、1980年代までは殆どの研究者がこのようなやり方をしていたのではないかと想像する。分担担当者が重要と判断した論文は、原著からアブストラクトをコピーし、教室員全員に閲覧可能としていた。このようにして、個々の教員の研究法の特徴や関心テーマ等も、アブストラクトを通じて窺うことができた。カレントコンテンツによる検索は教室においてできたが、これとは別に、専門領域の新着雑誌を図書館雑誌の新着コーナーで手に取り、内容に大雑把に目を通すということも日常的に行っていた。したがって、当時の私にとっては、図書館は週何回という形で頻回に訪れる場所であったわけである。

発行後間もない雑誌の中に重要な論文を見つける方法は上記のようなものであったが、過去に報告された重要な論文は、引用文献の中から見つけるというやり方と、インデックスメディアス中に探すという方法があった。後者は曲者で、10センチメートルはあろうかという単年度版のインデックスメディアスを必要な年度に渡って、キーワードか著者名から調べ上げるという作業であった。時には、図書館にこもり半日くらいの時間をかけてこの作業をしたことが思い出される。自分の探し求める論文情報が、存在するのかわからないのか、探し当てたときにだけ「あった」と言える状況であった。

長々と20年前までの論文検索を書き連ねてきたのは、1990年代以降に研究に足を踏み入れた若い世代には、このような時代に思いを馳せることがすでに難しくなっているのではないかと思ったからである。まさに手作業と呼ぶにふさわしいやり方には「おまけ」もあった。振り返って考えると、結果的に多くの論文タイトルに目を通すことになったので、研究のトレンドのようなものを意識するともなく知ることができたと思う。

洗礼

紙媒体の検索からIT関連情報データベースへの変化を如実に感じたのは、1990年から1992年に

かけてカナダマニトバ州のマニトバ大学細胞生物研究所で研究した期間においてであった。少し専門的な話しになるのをお許しいただくと、ちょうど研究では、血液の止血機能に重要な役割を果たす血小板の膜タンパクの解析精製を手がけており、精製された微量のタンパク質のアミノ酸配列を読み取る仕事を続けていた。読み取られたアミノ酸配列と類似のタンパク質の存在を検索するのに、電話回線を利用した米国国立衛生研究所（NIH）のコンピュータデータベースでの照合検索を行っていた。日本においては、そのような検索の仕方があるというのは全く知らなかったのが、驚いたことを憶えている。また先述のインデックスメディアは、年度毎に CD-ROM 版となっており、キーワード検索が可能となっていた。この便利さは、レトロ趣味の私にとっても大きな衝撃であった。これがキーワード入力とボタン一つという簡便さの魔力を体験した最初であったと思う。実は、カナダに行く前には、鹿田分館図書館の窓口から電話回線を使った論文検索システムを利用させていただいていたが、1 回のキーワード入力でのヒット数を見て、次のキーワードを設定するという際どい作業であった。私が CD-ROM による検索にひどく感心したのは、短期間に我彼の落差を経験したことも関係している。この期間を挟んで、ベルリンの壁崩壊、ロシアのクーデターと崩壊、湾岸戦争と世界的に大きな出来事が続いたことも「変化」の意識を加速させたように思う。その後、怒涛のように起こってくる情報革命の洗礼を、私はこのような形でまず経験したことになる。

課題

さて、今日の遺伝子、タンパク、化学物質、生物に関する各種のデータベースと、それらの加工情報データベースが、どれほどの範囲にわたっているのか私には見通す能力はない。これらの情報群は、今後も増え続けるに違いないが、利用することなしには真にその価値を知ることは難しい。私の場合必要な時のために、生物・医学関連のデータベースを一覧にした冊子を手元に置くようにしているが、実際に本気で利用するのは、自分の研究に必要なデータベースに限られている。しかし、これから育ってくる世代に対しては、学部学生の時代から主要なデータベースへのアクセス法、内容、利用価値、相互のリンクなどを十分に教育していく必要があると考える。大学院レベルの実戦での学習が望まれるが、学部学生に対してもオリエンテーションレベルを越えて、図書館と総合情報基盤センターが連携して教育に貢献する余地は残されていると思われる。

電子ジャーナルについては、現在専門のワーキンググループによって契約購入誌の検討が続けられている。利用者の立場からは、4 大パッケージに含まれる雑誌を読むことができる環境は非常にありがたいとこれまで感じていた。学術情報へのアクセスに関し、大きなハンディキャップがないことが「競争」の前提であるとの認識からである。ところが、競争原理の導入という名の下にわが国で進行する巨大プロジェクトへの巨大資本投下は、独立行政法人化した地方の大学を確実に窮地に追い込んでいる。電子ジャーナルワーキングにおける検討も、そのような苦渋に満ちている。一旦、学術情報へのアクセスのレベルで大きな差がつけば、「競争」は絵空事になってしまうであろう。このような難しい運営のなかにあっても、若いアクティブな研究者から寄せられる研究最前線の電子ジャーナル導入の要求に応える努力を怠れば、我々の未来は暗いものになってしまうと感じている。

(にしほり・まさひろ 岡山大学附属図書館鹿田分館長)

昔の読書の経験：本の効用 ～Read Me! Book.4～

中村良平

読書をするのは嫌いではないが、特段、趣味というわけでもない。年齢とともに忙しくなると、専門書とか専門分野につながる本はある程度読むが、それ以外の本はせいぜい買って満足していることが多い。新幹線で移動する時間も、専門分野の仕事に関する原稿や書類を書いている時間（これもそうだが）が圧倒的で、ワークホリックの典型かもしれない。

そうは言っても、最近の（平均的）学生よりは文学的な本は、学生時代（特に中高校時代）に多く読んだかもしれない。いま頃は、名著のダイジェスト版というのがあり、つまみ食いできるメリットもあるようだが。中高校時代には携帯電話もテレビゲームも無かったし、テレビのチャンネル数や番組数もずいぶん少なかった。それは、自由な時間をどのように過ごせるかという意味での選択機会は少なかった。これを経済学の消費の多様性が満足度を高めるという観点からすれば当時の効用水準は低かったことになる。しかし、限られた選択機会は、今思えば本を読むと言うことにとってはラッキーだったかも知れない。

小さい頃は、親が少年少女名作文学とか買ってきて、漫画ばかりを読まないでこういった文学的な本を読むように言われた記憶もあるが、なかなか与えられても読むものではない。文学的な本を読むきっかけとなったのは、中学2年のときの国語の先生が授業で、小説の背景や、その著者のほかの本の内容に関して説明してくれて、それが結構、本を読んでみようという誘因になった。国木田独步とか田山花袋とか志賀直哉とか森鷗外とか、新潮文庫や岩波文庫、旺文社文庫などで買ってきては読んでみて、はっきり言って面白かったという記憶はないので、最後まで読まなかった。ただ、文学的な名著に触れたのだという満足感に残って、国語の模擬試験では変な自信になった。

次は、高校1年の時である。どういうきっかけだったかは忘れたが、外国の文学作品を競って読んでその感想を言い合うということがクラスの一部にはやり、姉妹の作品であるジェーンエアや嵐が丘、二都物語、谷間の百合など、他にも読んだけど忘れてしまったのも多いと思う。推理小説というのは嫌いではないが、あまり読んだ記憶がない。

実は、その頃から小説とは別に、当時マニアの中で静かな流行であった白土三平の漫画を愛読というか熟読していた。そのなかでも、「カムイ伝」は初版本を全冊そろえており、中に出てくる日本史の解説を専門書で裏を取ったりした。ずいぶん、徳川時代の日本の裏の歴史には詳しくなったが、なぜが大学受験での社会の選択科目は世界史であった（理系だったので社会は1科目）。理由は極めて単純で、2年から学んでいるのと、日本史よりも世界史の方が知識が広がると思ったからだ。当時は、大学入試センター試験制度もなく、また国立大学は一期校・二期校の2つに分かれており、一校の受験機会は1回であった。

世界史を取ったのはもう1つ理由があって、英文解釈の授業で読まれた文章にアーノルド・トインビーの「歴史の研究」とスペングラーの「西欧の没落」からの抜粋があったことにもよる。これが結構興味を引いて、図書館で何冊かを借りて読んだり、西欧の没落は原書を一部読んだりした。おかげで、世界史の知識や英文解釈の力はついたが、理系の科目である物理や化学はさっぱりで、3年当時の担任の化学の先生からは理系には向かないので方向を変えたらどうかとも言われた。結局は、大学学部・大学院とずっと理系ではあったが、非実験系の分野ばかりを勉強したことになった。大学に入ってから、埴谷雄高や高橋和巳の本を何冊も買って読んだ記憶があるが、その頃は、読

んでは下宿の友人と中身を議論したものだが、今となってはその内容も記憶の彼方に行ってしまったのが実情である。

年代によって読む本の種類は異なってくる。学生時代に読んだ本をもう一度読む機会はなかなかありそうもない。まして、学生時代の方が自分で自由な使える時間は圧倒的に多い。多くの大人は時間のある「学生時代にもっと勉強していたら」ということを言うのだが、自分自身も、思想書や文学書をもっと読んでいたら、・・・なのに、という仮定法過去の思いはつきない。

インターネットを活用した データベース講習を考える：講師の声

矢田俊文

インターネットから利用できるデータベースは年々増えてきていますが、データベースの機能を十分に活用されているでしょうか？インターネットで利用できるからには簡単に、なんとなく使えらると思いませんか？そのような声に対して、講師としては、「マニュアルだけでは分からない便利な機能や使い方があるので、講習会に参加してほしい」と呼びかけています。しかし、講習会の参加者数は年々少なくなっており、インターネット時代もっと気軽に受けられるカスタマイズされた講習会が必要だと感じていました。

インターネットを活用した講習会は、講習会のカスタマイズ化の流れの中で、出るべくして出た技術です。講師側としては、移動の必要がありませんので、交通機関を心配することもなく、特定のユーザグループのご要望に沿った内容・スケジュールで講習会を開催することができます。また、ニーズに応じて繰り返し講習会を開くことも可能です。参加者側も馴染みのある主題に関する検索例を見ながら気軽に質問し、直ちに講師からの回答を得ることができます。またインターネット環境があれば、どこからでも参加できるのも大きな魅力です。お互いの顔が見えないとか、音声聞きづらいという課題もありますが、カスタマイズ化された講習会は、それらの課題を帳消しにするメリットがあります。

農学部大学院で1時限目に行った講習会が印象的でした。朝一番というのは東京からだだと難しく、今までであればなかなか対応が難しい時間帯でしたが、インターネットで講習会が開けるので実現しました。あるいは、講習会中「この先は一ヶ月後に聞きたい。」というご要望を受けたとき、今までだとお引き受けできなかったのですが、これも問題なく続きを開催することができました。他にも、今まで訪問できなかった倉敷地区での講習会が開けるようになりました。検索内容も話し合いながら進められるのでお互いに非常にやりやすかったと思いました。

今後は、基礎的な定期講習会や録音版の数を増やし、カスタマイズされた講習会では、ただ席に座って聞いているだけでなく、一層活発な質問や意見が交わされる講習会になるように工夫していきたいと考えております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

(やた・としふみ トムソン・ロイター サイエнтиフィック)

インターネットを活用した Web of Science/Endnote Web 講習会の実施

北 條 充 敏

岡山大学附属図書館では、平成 20 年度からトムソン・ロイターの文献検索ツール「Web of Science」や文献整理ツール「Endnote Web」の活用法について、インターネットを介した講習会を実施しています。平成 20 年 4 月から 12 月までに、合計 20 回のインターネット講習会を行い、延べ 144 人の受講がありました。インターネット講習会では、WebEX というインターネット会議システムをトレーニングに利用します。岡山大学キャンパス外にいる講師と受講生をインターネットで接続して、ウェブベースでリアルタイムに講習が行えます。図書館でも研究室や自宅でもインターネット環境があれば、小グループで受講できます。必要とする機材は、図書館で用意いたします。受講者の要望に沿って、気軽に受講できるのが魅力なところで、従来の講習会のように固苦しい気分がありません。また、わからないところがあれば、納得できるまで集中的に講師の指導を仰ぐことができます。大学院に入ると、研究のために、否応なく参考文献を探さなければならない状況が訪れるので、積極的にご体験ください。

(ほうじょう・みつとし 参考調査係長)

「インターネット講習会に参加して」

大 橋 知 子

2008 年 7 月から 12 月まで、連続して 4 回開催されたインターネット講習は、ホームページに掲載されていた「一人からでも受けられます Web of Science と endnote」という記事から始まりました。

2008 年 4 月入学当初より、研究指導教員や研究方法論の講師から、研究の基本は文献検索であるので、大学内で開催されている文献検索データベース講習会に参加するよう勧められていました。研究を進めていく中で、講習会に参加したい思いは募りましたが、遠方から通学している私にとって、事前に日時設定されている講習会に参加することは、大変難しいことでした。

保健学研究科の学生半数は、医療機関等で働きながら通学しています。「一人からでも受けられます・・・」の記事を偶然目にした私はさっそく申込み、講義を一緒に受けている同級生数名を誘いました。

初回の内容は「Web of Science と endnote」で、参加者も 4 名という小人数でしたが、図書館の方に、学生が参加できる日時に講習会を開催していただき、また内容についても看護研究に特化したものに変更していただくことで、回を重ねるごとに参加人数も増え、内容も深まってきました。

時間調整や内容についての要望にいただいた図書館学術情報部学術情報サービス課参考調査係の方には大変感謝しています。

これからは、教えていただいた内容を活用し、自分たちの研究をどのように発展させていくかが最大の課題だと思っています。

(おおはし・ともこ 保健学研究科)

山下 亜矢子

2008年4月入学後から、研究テーマに関する文献検索を行っていたが、思うように進行していない現状であった。昨年の夏、同級生よりインターネット講習会の参加の案内をもらった。

図書館で行われる、インターネット講習会参加は初めてで、どのような内容か不安であった。しかし、同級生より、講習会内容の説明を受け、不安が軽減した。

講習会はインターネットを使用し、文献検索データベース会社の方からダイレクトに説明を受けられ、質問に対しても丁寧な回答がいただけるということであった。自分自身の研究テーマに合った文献検索の手段となるよう、書面では不足している部分を講習会参加により補いたいと思い参加を決意した。

受講会は、鹿田図書館の2階にて行われた。「Web of Science」、「CINAHL」、文献整理ツール「Endnote Web」のインターネット講習会を受講した。「Web of Science」「Endnote Web」については講師とインターネットを通じて、文献検索方法だけではなく、質問などを交えながら、行われた。ソフトに実際携わっているスタッフによる講義であるため、文献検索システムの利点や欠点まで詳細に教えて頂き、指導を受けることができた。

CINAHLについては図書館の担当スタッフから指導を受けた。普段から疑問に感じていることなど気軽な雰囲気ですぐ質問することが出来た。当日に不明であった点は、図書館のスタッフから受講者へ後日、回答があり、疑問解決に至る、スピーディーな対応であった。

参加後、説明を受けた手順で、文献検索を行うと、自分の研究テーマに関する文献の多くが、海外から出版されていることに驚かされた。そして、図書館から容易に検索できたことに驚いた。文献検索した内容を文献整理ツールで管理しておく、自宅でも見ることが出来るため、情報収集量が大幅に増加した。文献整理ツールは、非常に利用価値の高いものである。また、各文献検索システムは文献整理ツールを容易に使えるようシステムが改良されており、利用しやすいものとなっていた。

実際に講習会に参加しなくても冊子を使用し、文献検索を行うことはできる。しかし、講習会へ参加すると実際に説明を受けながら検索方法やダウンロード方法など詳細に指導してくれる。また、図書館スタッフの親切な対応でのご指導が有り難かった。

電子媒体での文献検索により、書面での文献検索が容易となる。また、電子媒体での情報収集は検索システムにより利用が容易であり、書面での文献検索のような移動距離も少なく、利用しやすい。

今回の講習会の参加により図書館の利用方法として、紙媒体と電子媒体と多くの情報収集が行え、それを管理する方法としての電子媒体も存在していることが理解できた。

電子ジャーナルなど大学が出費し、教育環境を充実させている。広い視野で多くの情報量を得ることができるシステムである。今後、このシステムを活用し、自らの研究テーマに関する文献検索などを行い、多くの情報を得、研究を進めていきたいと考えている。

(やました・あやこ 保健学研究科)

ご存じですか（黒正巖先生胸像）

学術情報サービス課

平成 19 年度に案内板が設置されたのでご存じの方も多いかもかもしれませんが、中央図書館の正面に南北道路を向いて建っている銅像を知っていますか？この銅像は岡山大学の礎を造ったといわれる黒正巖先生の銅像です。

黒正先生は、岡山の旧制第六高等学校（岡山大学の前身校）の出身で京都帝国大学に進み、講師を経て京都帝国大学の教授に就任されました。農業経済史の研究で有名で百姓一揆の研究や Max Weber の社会経済史を紹介されたことで知られています。一説には京都にある銀閣寺の疎水の小径を「哲学の道」と最初に呼んだのは黒正先生とも言われています。

京都帝国大学で教鞭をとられていた黒正先生は、大阪の政界・財界・学界からの強い要請を受け、当時学園紛争のおこっていた浪華高等商業学校（現：大阪経済大学）に私財を投じて昭和高等商業学校として再建（1935 年）し、昭和高等商の初代校長に就任されました。しかし、昭和 19 年に故郷の第六高等学校が戦災で焼失したため、校舎再建のために校長として第六高等学校に赴任されました。

なぜ、岡山大学の礎を造った方なのかというと、現在の岡山大学の敷地は陸軍第 17 師団 48 部隊の駐屯地（現在も当時の建物がそこかしこに残っています。本部棟の後ろにある研究推進産学官連携機構の建物もそうです。）であった所でしたが、敗戦後、英印軍が駐留していました。その引揚げと同時に新制大学としての岡山大学設立に伴う学校敷地の確保のために第六高等学校生約 250 名に大号令を発して兵舎を占拠し、約 22 万坪の敷地を確保し、そこで授業を始め、また同時に警備も実施したことにより後の岡山大学の主要な学校敷地（津島キャンパス）が確保されたためです。

その後黒正先生は大阪経済大学の学長に就任されましたが、直後に逝去されました。（昭和 24 年 9 月、享年 55 才）

黒正先生の銅像はその功績をたたえ、昭和 36 年 12 月に第六高等学校の同窓生・大学関係者の有志により建てられ、現在の岡大生を見守っていただいています。

昭和 37 年度から岡山大学ではその毎年の学業及び人物の優れた卒業生に「黒正賞」という黒正先生の名前を冠した賞を贈呈しています

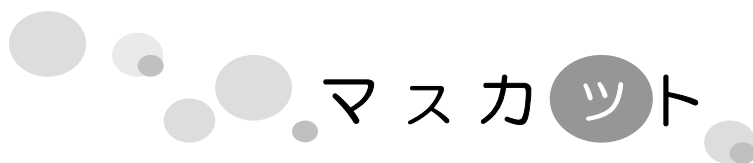
また、附属図書館には黒正先生の逝去後の昭和 27 年に遺族から旧蔵書の寄贈を受けており、黒正文庫と名付け所蔵しています。和書 354 冊、洋書 116 冊、写真 74 枚からなり、その中には我が国の百姓一揆に関する古記録や 17～18 世紀のツンフトに関する古文書（羊皮紙）等があり、いずれも貴重書として保存しています。



中央図書館前の黒正像

参考文献：岡山大学二十年史編さん委員会編「岡山大学二十年史」岡山大学、1967

岡山大学企画制作「黒正巖の生涯」DVD、2007



中央図書館耐震工事のお知らせ

今年度1月より附属図書館中央図書館本館耐震強度強化のため、一部閉館して耐震改修工事を行っています。資料配架場所に大幅な変更がありますので、必ず蔵書検索を実施して資料をご利用ください。利用者みなさまには大変ご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、なにとぞご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

部分閉館：岡山大学附属図書館 中央図書館 本館東側部分

期間：平成21年1月30日～4月4日

*コピー機等については設置場所を変更してご利用いただけます。

制限される資料：自然科学系雑誌

自然科学系図書（分類番号400～699）

制限される期間：平成21年1月30日～5月1日

*化学、地学、生物学、医学資料及び物理学資料の一部については新館にて利用可能です。

*数学資料は一部を本館2階アメニティコーナーにて利用可能です。

*工学・農学・産業系資料の一部は本館3階西側閲覧室等にて利用可能です。

池田家文庫等貴重資料展報告

附属図書館主催の、平成20年度池田家文庫絵図展「日本と『異国』」が無事終了いたしました。今年もたくさんの方にご来場いただき、総入場者数は2,254名を数え、展示会初日の11月1日に開催された記念講演会には60名のご参加をいただきました。

今回の展示会では、岡山大学文学部日本史学専攻の学生に展示実習の一環として展示パネル作りに参加してもらいました。また、「日本大絵図」の複製を展示室の床に広げ、来場者の方には直接絵図の上にあがっていただき、至近から詳細に絵図を見ていただきました。絵図の上にあがるという滅多にない機会に、子どもから大人の方まで、たくさんの方が絵図を真上から見下ろしながら興味深げに鑑賞されていました。

British Library への私費複写依頼受付開始のお知らせ（中央図書館）

今年度より、私費による British Library への文献複写依頼の受付を開始しております。国内に所蔵されていない、貴重な海外文献を取り寄せることができるようになりました（依頼者実費全額負担）。国内所蔵が確認できないもので、かつ The British Library Document Supply Centre が所蔵している場合は、依頼者へ海外依頼の問い合わせを行っています。料金は国内への依頼より高額になりますが、ぜひこの機会にご活用ください。

※料金はレートにより変動します。詳しくはお問い合わせください。

図書整理の外部委託導入について(中央図書館)

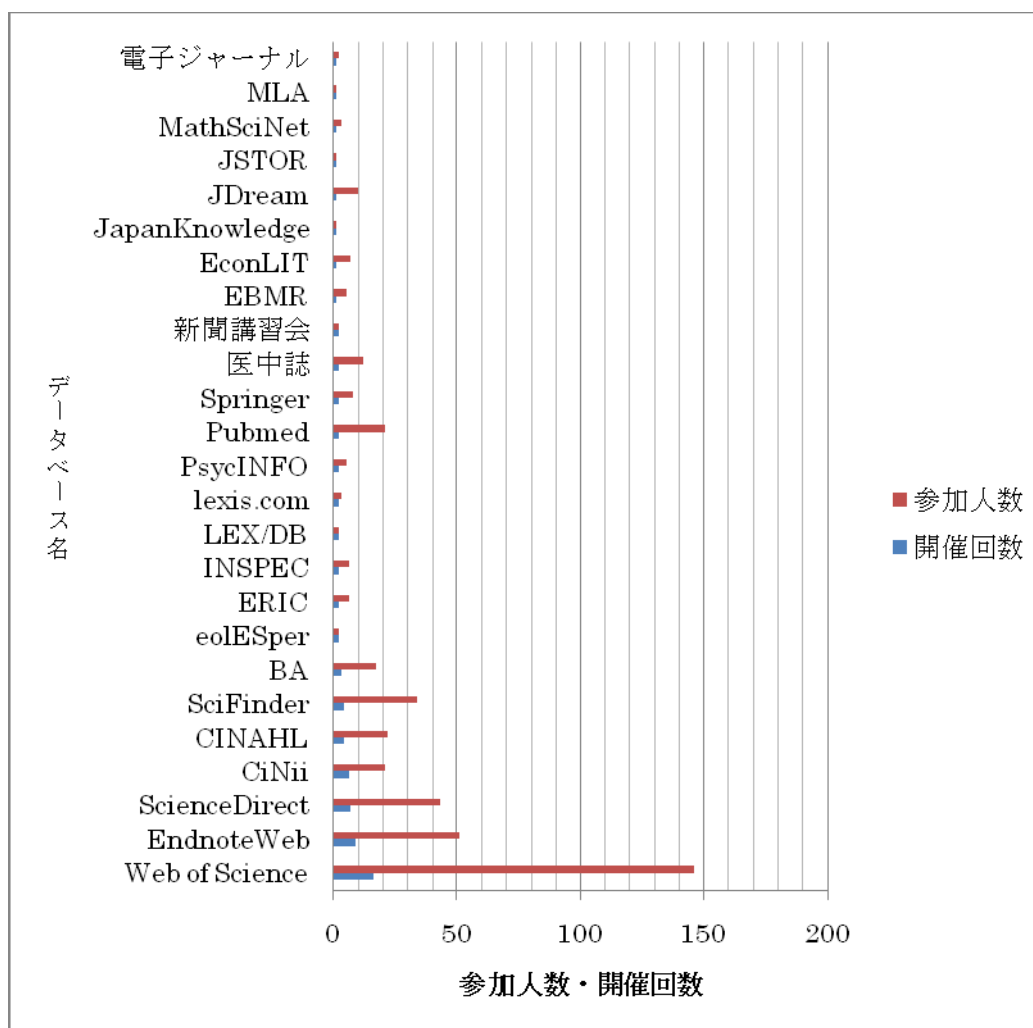
附属図書館中央館では、今年度の教員推薦学生用図書の購入にあたり、大部分を目録データ・装備付で購入しました。図書整理の省力化を目指すとともに、これまで捨てていたカバーを残すことにより図書の傷みを少なくすることも考慮しました。

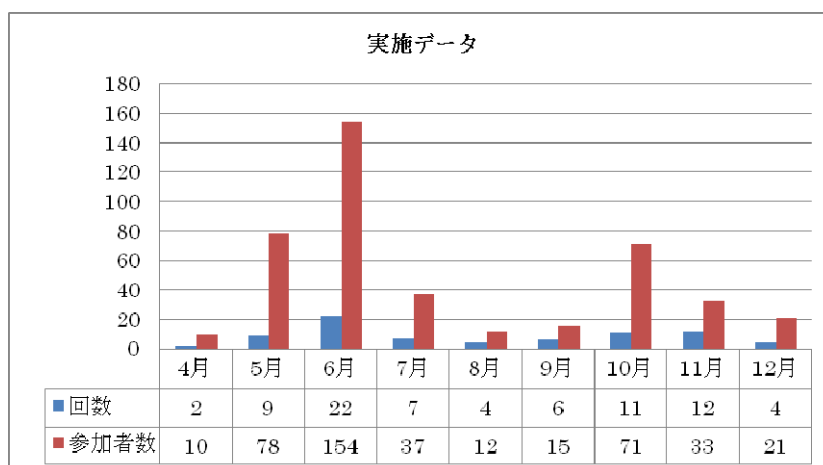
また、目録データについては、発注時の指示や、納品後のチェックにより、品質が落ちないように管理していきたいと考えています。

なお、購入費用は、まとめて発注したため、これまでより安い価格での購入ができました。

データベース講習会年度報告

附属図書館では文献検索や文献整理を中心としたデータベース講習会を中央館・鹿田分館・資源生物科学研究所分館で実施しました。特に、平成 20 年度は図書館主催の講習会実施回数を大幅に増やすとともに、インターネット (WebEX) を利用したデータベース講習会や研究室に出向いての出張講習会、英語によるデータベース講習会を実施しました。平成 20 年 4 月～12 月までに、全 76 回実施延べ 428 名の参加がありました。平成 20 年 4 月～12 月の詳細な結果については、以下のとおりです。





平成20年度第2回目「池田家文庫 こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」報告

平成20年度第2回目（通算第5回目）の「池田家文庫 こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」を平成20年12月14日（日）に開催いたしました。前日13日の天気予報では悪天候が心配されましたが、当日の岡山後楽園は晴れ上がり、気温もさほど寒くなく天候に恵まれました。今回は、岡山市内の小学生5名と、そのご家族4名の合計9名の参加がありました。

ワークショップでは、附属図書館職員による紙芝居「むかしむかしの後楽園」のあと、2つの班に分かれて、岡山大学教育学部の学生といっしょに、カードに描かれた絵図の一部分をヒントにして、現在の後楽園の中を歩きました。「延養亭」や「唯心山」などの場所では、学生のお兄さんやお姉さん、岡山県郷土文化財団研究員の万城あき先生から「そのポイントが江戸時代の昔にはどのように使われていたのか、どのような意味をもっていたのか」についてお話がありました。参加してくれたこどもたちは、後楽園の中を歩きながら、後楽園を作った池田綱政というお殿さまが好んだ景色（借景）を見たり、後楽園が一望できる唯心山に登って後楽園の全景を眺めたりしながら楽しくすごしました。参加してくれた記念に、後楽園の借景をバックに鶴鳴館の前で記念撮影をした写真を、修了証に貼って、こどもたちにプレゼントしました。ワークショップの最後には、こどもたちにワークショップで歩いた場所と一番よかった場所について発表してもらい終了しました。

平成20年度公開講座「池田家文庫絵図をもって岡山を歩こう」報告

この度、岡山大学附属図書館主催の公開講座「池田家文庫絵図をもって岡山を歩こう」、江戸時代に作成された絵図をもって岡山城、岡山後楽園や城下町を歩き、絵図に描かれた現地で講師の話聞くという全5回シリーズが終了しました。いつもたいへん人気のあった公開講座であり、平成20年5月24日に開催された第1回目の岡山県立図書館での講演会「池田家文庫城下町絵図について」（講師：岡山大学大学院社会文化科学研究科 倉地克直教授）では会場いっぱいの98名、その後の春・秋に実施した岡山城、城下町、後楽園、山陽道（1回あたり定員30名）でも合計延べ128名の参加がありました。第2回目以降の屋外の講座は各回とも天候に恵まれ、多くの歴史好きの愛好家や岡山市民などの参加があり、特に絵図等に興味をもった参加者たちは、配られた池田家文庫絵図資料と現在の岡山城や岡山後楽園、市街の姿と照らし合わせながら講師の話をも熱心に聞いていました。この企画は来年度以降も継続して開催することとし、郷土の歴史を知りたいという多くの地域の人々の期待にこたえていきます。

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

〈中央図書館〉※教員業績コーナー（本館1階）に配架

- 倉地克直 [大学院社会文化科学研究科]
 徳川社会のゆらぎ（日本の歴史：全集 11）——小学館，2008 (210.08/N)
- 外村直彦 [名誉教授]
 八大文明——朝日出版社，2008 (201/T)
- 高橋輝和 [大学院社会文化科学研究科]
 言語学の基礎概念と研究動向 第2版（共訳）——三修社，2003 (801/G)
- 辻 星児 [大学院社会文化科学研究科]
 開けずの箱（監修）（吉備中央町のむかしばなしシリーズ 1）
 ——吉備中央町，2008 (388.175/K)
- 馬方とおに（監修）（吉備中央町のむかしばなしシリーズ 2）
 ——吉備中央町，2008 (388.175/K)
- 西田和弘 [大学院法務研究科]
 市民社会と社会保障法 新版（共著）——嵯峨野書院，2007 (364/S)
- やさしい社会福祉法制 新版（共著）——嵯峨野書院，2008 (369.12/Y)
- 知的障害者施設のリスクマネジメント（執筆）（事故防止マニュアル 2）
 ——日本知的障害者福祉協会，2008 (369.28/C)
- 西山康一 [大学院社会文化科学研究科]
 芥川龍之介研究年誌 2（共著）——芥川龍之介研究年誌の会，2008 (910.268/A)
- 山下 京 [大学院社会文化科学研究科]
 中小企業の事業承継に関する研究報告書：
 岡山県内の経営者および予定者を対象とした調査を中心にして（研究グループ）
 ——岡山経済研究所，2008 (F335.1/C)

(敬称略五十音順)

会議

◆学外

- 20.10.16 平静 20 年度国立大学図書館協会中国四国地区協会実務者会議
(於 山口大学)
・地域との連携・社会への貢献-大学図書館の地域貢献を考える
- 10.23～24 第 49 回中国四国地区大学図書館研究集会
(於 KKR あさくら)
・これからの大学図書館に期待されるもの
- 11.7 平成 20 年度中国四国地区国立大学図書館所管部課長会議
(於 岡山大学)
・図書館活動の近況について ほか
- 11.13～14 第 44 回日本医学図書館協会中国・四国地区会総会
(於 香川大学)
・評議館年間報告、各館年間報告、議題協議 ほか
- 12.2 平成 20 年度国立大学図書館協会シンポジウム
(於 京都大学)
・図書館職員としてのキャリア形成を求めるあなたに-望まれるキャリアパス制度をめざして
- 21.1.28 平成 20 年度国立大学図書館協会中国四国地区協会事業委員会総会
(於 広島大学)
・平成 20 年度国立大学図書館協会中国四国地区事業委員会の活動報告について ほか

◆学内

- 20.10.20 平成 20 年度第 3 回附属図書館運営委員会
- 21.2.24 平成 20 年度第 4 回附属図書館運営委員会

研修

- ・平成 20 年度図書館等職員著作権実務講習会
参加者 久磨 由美子 (9.10～9.12)
- ・平成 20 年度漢籍担当職員講習会 (初級)
参加者 山田 智美 (10.6～10.10)
- ・平成 20 年度大学図書館職員短期研修
参加者 久磨 由美子 (10.7～10.10)
- ・平成 20 年度学術情報リテラシー教育担当者研修
参加者 藤原 智孝 (10.22～10.24)
- ・平成 20 年度漢籍担当職員講習会 (中級)
参加者 山田 智美 (11.10～11.14)
- ・平成 20 年度 NACSIS-CAT/ILL ワークショップ
参加者 山田 智美 (12.3～12.5)

編集委員会から

昨年度の書庫と時計塔に続いて、現在は本館閲覧室の耐震工事中です。建物のリニューアルだけでなく、サービスの内容も少しずつの変化を重ねています。学生と図書館長の懇談会で出された要望などができるところから対応し、開館時間の延長や貸出制限の緩和となりました。懇談会の様子や要望のまとめは図書館ホームページに別枠で詳しく掲載しています。学生の皆様にはそちらもぜひご覧になり、次回懇談会に参加していただくと幸いです。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.48 平成 21 年 2 月 28 日

発行人 小花洋一 編集 広報誌編集委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市津島中三丁目 1-1 電話 086-252-1111

ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>